

徳川時代ノ封建制度ニ就テ

本庄榮治郎

徳川時代ニオケル政治社會組織ヲ以テ封建制度トイフコトヲ得ルヤ否ヤニツキテハ從來多少ノ議論アリ。或ハ之ヲ以テ依然封建制度ノ時代トナスアリ、或ハ集權ノ國家ノ時代ト見ルヲ適當ナリト論スルモノアリ。福田博士ハ夙ニソノ Die gesellschaftliche und wirtschaftliche Entwicklung in Japan 1900 (明治二十二年)ニ於テ徳川時代ヲ以テ「日本ニ於ケル封建制度最盛ノ時代ト稱スルモノ稀ナリトナス、是レ日本ノ學者先ツ唱ヘテ歐洲ノ學者ノ和セル所、普ク行ハルル見解ナリト雖、予ヲ以テ之ヲ見ルニ全然誤謬ノ見解ナリ」ト斷シ、同時代ヲ以テ封建時代ノ形式ハ尙存續スルモ、ソノ實ニ於テ近世の中央集權ガ封建國家ノ殘塞ノ上ニ築カレタルモノトナシ、之ヲ專制の警察國家ノ時代トナスノ適當ナルヲ説カレ (同書譯書「日本經濟史論」明

雜錄 徳川時代ノ封建制度ニ就テ

治四十年)尙「國民經濟原論總論」(四十二年)ニ於テモコノ説ヲ維持シ、徳川時代ヲ以テ封建制度トナスハンノ外形ノミニシテ其真相ハ即チ國民經濟ノ第一期タル專制主義ノ時代ナルコトヲ明カニシ(一六二頁)、三十六年五月ノ史學雜誌(十四編)ニ於テ文學士阿部秀助氏ハ「内田博士ノ日本近世史ヲ讀ム」ノ題下ニ於テコノコトニ言及シ特ニ福田博士ノ右原著ヲ掲ケテ福田博士ノ説ニ和シ、山路愛山氏ハンノ著「西鄉隆盛」上卷(四十二年六月)ニ於テ徳川氏ノ政治ハ「所謂封建政治ト郡縣政治トヲ混合シタル一種ノ政體」ナリトシ「日本全國ニ散布スル大地主タル土豪ヲ以テ組織スル Feudalism (封建政治)ニ非スシテ徳川氏ト稱スル大ナル王國ガ其武力ヲ以テ他ノ小王國ヲ服從セシメタルモノニ過キス」ト説キ、更ニ「江戸時代」(國民雜誌、三卷九號附錄「江戸十五年」)ニ於テ「江戸時代ハ封建制度ノ世ニ非ス郡國並置ノ世」ナルコトヲ詳説シ、最近文學士中村孝也氏モ亦「封建制度論」(國家及國家學四卷十二、十二月及大正)ニ於テ略同様ノ意見ヲ公ニセラレタ

第七卷 (第三號 一三九) 四二九

リ、其他國民經濟雜誌ニオケル福田博士ノ「瀧本誠一氏著日本經濟學說ノ要領」、内田博士ノ「福田博士ノ文ヲ讀ミテ」(以上、八卷、三號、四)及ヒ松崎壽氏ノ「吉田博士著維新史八講」(十卷二號、四十四年二)ノ中ニモ關係事項アリ。余ハ茲ニ以上ノ諸文獻ヲ敢テ批評セントスル者ニアラス。タダ福田博士ノ前掲名著原文ノ始メテ公ニセラレシ年ヲ去ルコト實ニ十數年以前ノ一八八七(明治二〇)年六月ニ於テ Gubbins 氏ガ日本亞細亞協會ニ於テ德川時代ノ封建制度ニ就テ一ノ報告ヲナシ、同年ノ同協會報告 (Transactions of the Asiatic Society of Japan, vol XV) ニ之ヲ掲ケ、德川時代ノ封建制度ガ前時代ノソレト大ニ趣ヲ異ニシ、中央集権的色彩ノ大ニ加味セラレオルコトヲ道破セルコトヲ注意セント欲スルニ過ギサル也。

二

Gubbins ハ我國封建制度ノ起源ガ頼朝ノ開府ニ存スルコトヲ述ヘ、北條足利ノ兩時代ヲ經テ所謂戰國時代トナリ諸侯ノ興廢存亡常ナカリシ

モ、封建制度ソノモノハ尙ソノ命脈ヲ維持シテ織豊ニ氏ノ時代ニ入り、更ニ一轉シテ家康ノ大業成就ニ及ヒタルコトヲ述ヘタル後、德川時代ノ封建制度カ前時代ニ比シテ頗ル異レル色彩ヲ有スルコトヲ説キタリ。即チ曰ク「ミカド帝國ノ著者⁽¹⁾ハ日本ニオケル武家政治⁽²⁾ノ發達ニツキ價値アリ興味アル記述ヲナシタルガ、家康ノ政治行政ヲ以テ兩頭政治⁽²⁾及封建制度ノ完全ノ域ニ達シタルモノナリ (The perfection of duarchy and feudalism) ト説ケリ然レトモ duarchy ニツイテハ彼ノ言ハ正當ナルヘキモ、封建制度ニ關シテハ誤解ヲ生スルノ虞ナキニ非ル也。若シ封建制度ノ完成トイフコトヲ以テ單ニ武斷的政治ノ組織のトナリタルコトガ德川將軍ニヨリテ行ハレタル所ナリトノ意味ニ解スルナラバ、ソハ必スシモ不適當ニ非ル可シト雖若シコノ語ヲ以テ家康ノ下ニ於テ封建諸侯ハ獨立の地方的權力者トシテソノ勢力最高潮ニ達シタルモノノ意味ニ解スルナラハ perfection of feudalism ナル語ハ全然誤解ニ導クモノトイハサル可ラス。思フ

(1) Wm. Elliot Griffis, The mikado's Empire.

(2) duarchy ハ朝廷ト武家トノ對立ヲイフ

ニ日本ニオケル封建制度ノ黄金時代ハ實ニ十六世紀ノ中葉ニ在リ。コノ時代ニ於テハ長州ノ毛利ハ十數國ヲ領シ、長曾我部ハ四國ノ覇者タリ信長ハ尾張方面ヲ略シ、甲州ノ武田、越後ノ上杉、何レモ大國ヲ領シ、九州ニハ豊後ノ大友、肥後ノ龍造寺、薩摩ノ島津アリテ、信長秀吉ノ治世以前ニ於テハ全國分立 (decentralization) ノ大勢ニアリシト明カナリ、然ルニコノ大勢ハ信長ニヨツテ阻止セラレ、秀吉ハ更ニ地方諸侯ノ勢力ヲ打破シ之ヲ中央政府ノ權力ノ下ニ屈服セシメズンバ止マサルニ至リシガ、家康ハコノ前任者ノ行ハントセシ所ヲ遂行シ全帝國ヲ擧ゲテ一ノ行政組織ノ下ニ鍛造スルニ至レリ。即チ諸侯ノ封建の權利ヲ尊重スト雖、將軍ノ最上權 (Supremacy of the Shogunate) ヲ確立シ、從テ地方分權ト中央集權トノ間ニ於ケル一種ノ妥協政治ヲ立ツルニ至リシナリ (A sort of compromise between local autonomy and centralization) 。

而シテ更ニ家康及ヒソノ子孫ニヨリテ組織立テラレタル封建制度ノ主要ナル點ニツキ前時代ト

比較シ、徳川時代ニ於テ前代ノ舊例ヲ重ンジテ之ヲ變革セサリシ點ノ存スルト共ニ、又異レル制度ヲ立テタル場合ノ少カラサルコトヲ説キ、後者例ヘハ諸侯ト將軍トノ關係、旗本及御家人ノ組織、譜代大名ト外様大名トノ區別、諸侯ノ職名等ヲ詳説シタル後、更ニ當時ニ於テ所謂天領ノ多カリシコト、諸侯ノ將軍ニ對スル年々ノ進獻、及種々ノ御手傳、工事ノ負擔、參觀交代制度等ノ手段ニヨリテ諸侯ヲ統御シ幕府ノ權力ヲ確保セント努メタルコトヲ説キタリ。

三

以上説ク所ノ Gubbins ノ説若シ卒然トシテ之ヲ讀マバ何等ノ珍奇トスル所ナキガ如クナルヘシ雖、福田博士ノ説カレタル如ク我國學者ノ徳川時代ヲ以テ封建制度最盛ノ時代トナスモノ多ク外人マタ之レニ和セルモノ多キニ拘ラス、Gubbins ハ先ツソノ説ヲ非トシ、地方分權諸侯併立ノ封建制度ハ十六世紀ノ中葉ニ於テ最盛期ニ達シソノ以後ハ次第ニ集權的ニ傾キ徳川時代ニ於テハソノ色彩殊ニ著シク、寧ロ封建制度ト

郡縣制度トノ間ニ一ノ妥協點ヲ見出シタル政治
 卽チ愛山氏ノ言ヲカリテイヘバ郡國併置ノ世
 (郡縣ノ制度ト封建ノ制度トヲ併ヒ行ヒシ世ナ
 リ)ナルコトヲ道破セル點ニ於テ、コノ論文ハ
 非封建論ニ關スル一ノ注意スヘキ文献ナリト見
 ナルヘカラス。

四

然レトモ又驪テ考フルニ德川時代ヲ以テ封建
 制度ノ時代ナリトスル學者ニ於テモ德川時代ノ
 政治社會組織ガソノ以前ノ狀態ト大ニ趣ヲ異ニ
 シ決シテ同一視スヘキモノニアラス殊ニ幕府カ
 ヲク諸侯ヲ統御シ、事實ニ於テ強固ナル中央政
 府ヲ建設シ、中央集權の色彩ノ強カリシコトハ
 モトヨリ之ヲ認ムルモノナルカ故ニ、德川時代
 ニオケル政治社會組織ノ事實ニ就テハ論争アル
 ニアラス。タダコノ事實ニ對シ封建制度ナル名
 稱ヲ付シテ可ナルヤ否ヤノ點ニ問題ハ存スル
 也。福田博士ハ曰ク「我邦學者ガ慣用スル封建
 ナル成語ハ其内容極メテ茫漠タルモノナリ、普
 通之レヲ以テ郡縣ニ對スルモノトナス、若シ果

シテ然ラハ Feudalism, Lehnwesen ヲ邦譯スル
 ニ封建ヲ以テスルハ中ラス、德川時代ハ明カニ
 Feudalism ノ時代ニアラザレバナリ、然レトモ
 封建ノ語ハ德川時代ニ至テ當時ノ制度ヲ指稱セ
 ントテ學者ノ普ク用キタル語ナルガ故ニ或ハ德
 川時代ハ封建時代ナリト云フヲ得可シ、然ルト
 キハ封建制度トハ Feudalism ノ意ニアラスシテ
 却テ其漸次崩壞スルニ方リ生シタル專制的警察
 國家ノ制度ヲ意味スルモノト解スルヲ要スル
 也。蓋我邦近來ノ學者ガ深ク此間ニ儼然タル差
 異アルニ意ヲ注クコトナク、封建ヲ譯スルニ
 Feudalism ヲ以テシ Feudalism ヲ譯シテ封建ノ
 二字ニ宛テタルハヤガテ非常ノ誤謬ト紛亂ヲ招
 クノ因ヲナセルモノト云ハサル可ラス」ト。是
 レ封建論ト非封建論トノ論争ノ因テ生シタル所
 以ヲ明カニスルト共ニ、復コノ論争ヲ解クヘキ
 一ノ關鍵ヲ示スモノニ非ル乎。簡言スレハ如何
 ニ封建ノ意義ヲ定ムヘキカガ先決問題ナラサル
 可ラス。コノ點ニ關シテハ他日稿ヲ改メテ之ヲ
 説ク可ク、今ハタダ Gudiens ノ所説紹介ヲ以テ

巴マンノミ。

(正誤) 第六卷第六號所載赤穂ノ盤田(一)ノ中左ノ通り正誤

ス

一四四頁下段十五行、刀木歟ハ馬歟ノ誤

一四六頁上段 七行、一晝夜ハ二晝夜ノ誤

一四七頁下段 一行、二十六穴ハ二十穴ノ誤

同 六行、改良式月給ノ部ノ表ノ最上欄ニ、頭、

上日備ノ二者ヲ脱刷セルモノアリ、即

チ月給七八月十五圓云々ノ方ハ頭ノ扶

持米及月給ニシテ、十四圓云々トアル

方ハ上日備ノ分ナリ、上日備以下ニ對

シテハ月給制ノモノナシ